

教育人会議

kyoikujinkaigi

テレビをめぐる 学問の広がり

2016

January

新春号

夢ナビ連動企画

vol.12

特別企画

これからの
知識基盤社会を支える
優秀な人材を育む
高大連携

関西学院大学 × 大阪府立北野高等学校

芸術で、世界の人々が
心豊かに暮らす社会を作る

連載 国際化のススメ／東京藝術大学

夢ナビライブ2015
開催レポート

対談

明日の教育

コミュニティ社会で支えるべき
日本の教育力



教育人会議 × 関西医科大学
医療教育改革に挑む

教育人会議 × 崇城大学
「地方創生」における
大学の役割は
若者の夢を引き出し
育成すること

FROMPAGE

若者に必要なことは、地元でもグローバルに活躍できる道筋を示すこと

熊本県の人口動態調査によると、30年以上も前から、若い人たちが年間4000人以上も県外に流出し続けているという、驚くべき事実が明らかになりました。その多くは三大都市圏への流出で、大都会のブランド企業に就職できれば将来も安泰という観念的な安定志向が、地元を離れる主因となっているようです。

若者の流出が地方の少子化を加速させ、地域産業や経済の活力を失わせているのですから、この流れを食い止めることこそ「地方創生」の根幹であるはずです。したがって、地方の大学が地方創生のために果たすべき役割は、地元でも一生をかけられるような仕事が生み出せる、グローバルに活躍できるという道筋を、学生に示すことでしょう。

近年は、何をすべきか自ら考え、自ら行動できる若者が非常に少ないように感じます。しかし、人々の生活を大きく様変わりさせたICTの進歩を見てもわかるように、新しい時代を切り拓くのは、やはり若者たちのアイデアです。それを引き出し、それぞれの学生に合った学びや研究課題を与え、意欲と才能を引き出し育成することが、大学の使



行っています。これも、前述の教育刷新プロジェクトの「環で、読み書き中心の英語教育だけで本当にグローバル人材を育成できるのかとの反省から、講義のあり方を抜本改革したものです。

さらに、生きた英語力と国際感覚を養うため、世界12カ国・24大学と協定を結び、数多くの留学プログラムや海外研修を実施しています。

学生の起業家マインドを育成し、熊本をベンチャー集積地に

人の生活を根本から変えてしまうようなイノベーションを起こし時代を切り拓いていくのは、若者のベンチャーから生まれています。また、地方創生は地元で未来性を感じ、地元で「生暮らしたい」と考えてくれなければ、実現しません。そこ

命だと考えています。

そこで本学は、2011年から「教育刷新プロジェクト」に着手。学力の基礎やコミュニケーション能力などの質的向上を図りました。その一環として、「一人ひとりに寄り添い夢を育むことができるように、教員1人が5人の学生を卒業まで担当し、クラス担任と連携しながら指導にあたる「チューター制」をスタートさせました。各教員が自らの経験や見識をもとに、担当する学生たちの夢を引き出し、方向性を見出して、夢の実現と自立を促すわけです。当然、教員側にも学生を引っ張っていくスキルが求められますから、「FD（ファカルティ・デベロップメント）委員会」を中心に、教員の教育的資質の向上にも絶えず取り組んでいます。

グローバル化を見据えた英語教育の刷新

グローバル化が急速に進む現代、英語教育が極めて重要であることは言うまでもありません。本学では、1・2年生の必修科目である英語の講義を「SILC（シルク）」と名付けた英語学習施設内で行っており、その全授業をネイティブ教員が担当。日本語を禁止して実践的英語コミュニケーション能力の養成を

で本学は、熊本を「ベンチャー集積地」として発展させることをめざし、「学生起業家育成プログラム」を本格的にスタートさせました。学部・学科を問わず受講できる「ベンチャー起業論」を開講したのに続き、大学公認の「起業部（SOJO Ventures）」を設立。昨年、第一回の「ビジネスプランコンテスト」を開催し、優秀なアイデアを出した学生をシリコンバレーに留学させました。また、海外拠点となる「サンフランシスコオフィス」を開設したほか、来年度をめどに本学独自のファンド会社を設立し、学生の起業支援を強化する計画です。

また、実践的な教育を主体としている本学にとって即戦力の養成という意味では、全国でも数少ないエアラインパイロットの養成教育があげられます。熊本空港内のキャンパスにおいて、元国際線パイロットとして豊富な経験を有する教員がきめ細やかな指導を行うなど、すべて自前で実施できる、国内初の大学となりました。熊本県とも「パイロットのふるさとづくり等」に関する包括連携協定を結び、パイロットをめざす若者が熊本に集結し、地域が活性化することを願っています。

また本学は現在、「いのちとくらしを尊重する分野の研究に優れた大学」をめざしています。これは



崇城大学

〒860-0082
熊本県熊本市西区池田4-22-1
TEL 096-326-3111

崇城大学は、建学の精神「体・徳・智」の下、豊かな人間性と「いのちとくらし」に関する高度な専門性を有する人材を育成し、人物および技能の両面を通して、「いのちとくらし」の各専門分野における革新と貢献をめざします。そのため、本学の教育の実践においては、汎用的能力と各専門分野の基礎力の修得に重きを置き、将来、社会において人々から信頼され、いかなる仕事にも容易に習熟できる能力を養成することを目指します。

「いのち」と直接関わる研究を行う薬学部や生物生命学部ばかりでなく、すべての学部・学科に共通する目標です。「一度しかない人生をどう生きるか」について、学生が具体的な目標を描き、それに向かって努力できる体制を整えることが、「いのちとくらしを尊重すること」につながるのです。「この地で、自分の『いのち』を輝かせられるような生き方をしよう」と、より多くの学生に考えてもらえるような大学教育を実施することが、地方創生につながるものと信じています。

教育人会議 × 崇城大学

「地方創生」における大学の若者の夢を引き出し育成すること

超高齢化と人口減少により、多くの地方自治体が「まちの活力」を失いつつあります。

国を挙げて「地方創生」の施策が進められているものの、地域経済の失速には歯止めがかからないのが実情です。

喫緊の課題である地方創生に向け、大学は何ができるのか、どのような役割を担うべきか。崇城大学の中山峰男学長に、お話を伺いました。

役割は



崇城大学 学長

中山 峰男 なかやま みねお

熊本市出身。1971年熊本大学・工学部（生産機械科）卒業、積水化学工業入社。80年学校法人「君が淵学園」入職。93年熊本工業大学附属情報技術専門学校（現崇城大学専門学校）校長、97年法人局長などを経て、2003年君が淵学園理事長、崇城大学学長、文徳学園理事長就任。

「生物」志望から「機械」へ そこには意外な共通点が!

崇城大学 中山 峰男 学長 ▶ P.42

子どもの時から植物、昆虫などが好きで、高校では生物部に所属していました。進路選択の際も、生物関連の研究ができる学科をめざしていたのですが、父親から「そんなことを学んでも、教師になるくらいしかないからやめておけ」との大反対を受け、やむなく工学部の生産機械分野に進みました。私の父は教員でしたので、教職の大変さを知っていただけに同じ職業には就いてほしくなかったのでしょう。

ただ、全く関連がないように思える「機械」と「生物」ですが、共通する部分も多いことを大学入学後に実感しました。生き物の神経伝達の仕組みは、電気の流れの一種ですから、似ている部分があるのは当然だったのです。

大学卒業後はエンジニアとして勤務した後、縁あって教育分野の職に就きました。現在、生物と機械との共通点を研究し、世の中に生かせるような学問を、本学の新しい学科として立ちあげられないかと、密かに考えているところです。



私が選んだ
学問は
機械工学